

北海道浮魚ニュース

平成 29 (2017) 年度 11 号

2017 年 7 月 24 日

道総研水産研究本部 函館水産試験場

ホームページ : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎第2回日本海スルメイカ長期漁況予報発表される

7月20日、水産研究・教育機構より第2回日本海スルメイカ長期漁況予報が発表されたので概要をお知らせします。今回は日本海全域を対象とした漁期後半(8~12月)の予報です。

なお、この予報は国及び日本海側道府県の水産研究機関が参画し、日本海区水産研究所がとりまとめを行いました。予報文の全文は以下のサイトでご覧になれます。

水産研究・教育機構 (<http://www.fra.affrc.go.jp/>)

日本海区水産研究所 (<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>)

「我が国周辺の水産資源の現状を知るために」(<http://abchan.fra.go.jp/>)

今後の見通し (2017年8~12月)

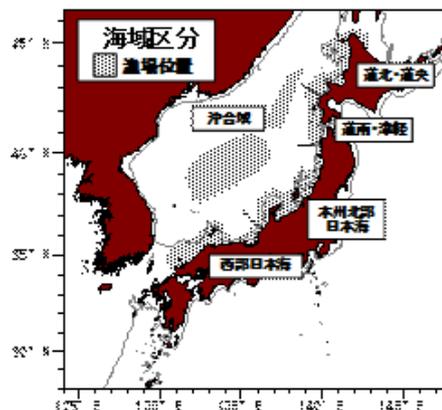
対象魚種 : スルメイカ

対象海域 : 日本海 (道北・道央、道南・津軽、本州北部
日本海、西部日本海、沖合域)

対象漁業 : 主にいか釣り漁業・小型いか釣り漁業

対象魚群 : 秋季発生系群、後半は冬季発生系群も含む

- ・今期の全体の来遊量は不漁の前年並で、近年平均を下回る。
- ・道北・道央の今期の前半では前年および近年平均並。
- ・道南・津軽では前年並で、近年平均を下回る。
- ・本州北部日本海および西部日本海では近年同様、漁場が形成されにくい。
- ・沖合域では前年並で、近年平均を下回る。漁場は、北海道西沖で8月~11月、大和堆周辺海域で11月~12月に形成される。



※近年は過去5年(2012~2016年)の平均、前年は2016年のことです。

・6月上旬~7月上旬に実施した日本海漁場一斉調査(函館水試調査分は浮魚ニュース第8号参照)では全国の資源量指標値は前年並となり近年平均を下回ったことから、来遊量は「不漁の前年並で、近年平均を下回る。」と予想されました。

・日本海漁場一斉調査での外套長は、沿岸域では17cm台~18cm台及び16cm台以下の小型個体を中心でした。全体的な体長組成は前年及び近年平均よりも小型でした。

・日本海全域の漁獲量は、4月まで前年を下回り、5月以降前年並となりました。道北・道央での漁獲量は、例年通り6月から増加し、前年および近年平均を上回りました。道南・津軽での漁獲量も例年通り6月から増加しましたが、前年および近年平均を下回りました。

(函館水産試験場調査研究部 TEL : 0138-83-2893、FAX : 0138-83-2849)